

東 神 油 槽 船 株 式 会 社 平成30年12月7日 BY安全管理室

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-5-14 入江ビル7階

TEL03-3270-3033・FAX03-3241-2812

## 【 事故を防ぐために一登山に例えると一 】

現場などの作業で最も大事なことは、①危険を予知する②それを回避する③拡大を防止するといわれます。予測できる危険については、経験なりマニュアルとして残すこともできます。今回は違う観点から、トラブル回避の一つの方法についてみていこうと思ひ、こんな記事が印象に残り、引用してみました。

『よくネズミー匹みたら二十匹いると思え、などといひます。目にみえる事故はわかるのですが、その陰になった誘因は意外にわかりません。「ひとつの大事故の背後には幸いにして事故にならなかつたトラブルが 270 件もあるとか……」この統計は労働災害のものです、山でも、こと生活技術に関しては同じかもしれません。登山をしているとき、疲れた後など、たしかに思考能力が低下します。特に手馴れた仕事になると記憶の空白が生じます。

たとえばローソクをつけ放したまま、バーナーにガソリンを補充したり、メモ帳を出したとたん何を書くのか忘れてしまつたり、ふつうでは考えられないおかしなことをやつてしまうものなのです。

キャンプなどで一番多い事故はヤケド、切り傷だそうです。もつとも手馴れているはずの仕事にトラブルがもつとも多い、ということになるのです。

登山事故が、誰でもが注意するところではまずおこらず、かなりやさしい気のゆるせるところで多くおこるというのもこの心理でしょう。

たとえば自動車事故でも、絶好の条件のときは最悪の条件のときと同じにほとんど事故がおこらず、判断になやむときがもつとも事故数が多いのだそうです。

ベテランのソツのなさ、抜け目のなさというのは、このような小さなトラブルの遠因となる記憶の谷間、注意の谷間を生じる比較的たやすい仕事にも、充分の注意を払える精神の余裕のことをいうのではないのでしょうか。』 引用:「山の生活手帳」川口邦雄  
熟練の持つ凄さ、それは専門力(技能、知識、知恵、未然問題解決力…)今後ともよろしくお願ひします。

以上